

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年7月9日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	6月の価格情報				7月の価格情報		7月の主産地	生育及び価格の7月下旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	6月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率					
		上旬	中旬	下旬							
葉茎菜類	キャベツ	67.20	55 (82%)	76 (113%)	87 (129%)	77.90	・9.646t (108%)	群馬(68)、岩手(14)		群馬産及び岩手産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の切り上がりが例年より早まったことで一時的に上昇した価格は、その後下落して現在平均に近づいており、7月から平均価格が上がる中、群馬産及び岩手産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。	
		81.66	67 (82%)	86 (105%)	95 (116%)	88.91	・2.422t (115%)				群馬(54)、長野(34)
	たまねぎ	85.93	72 (84%)	64 (74%)	67 (78%)	102.67	・8.357t (193%)	兵庫(29)、佐賀(23)		兵庫産は、収穫が終了して貯蔵物からの出荷となっており、引き続き平年を上回る出荷の見込み。佐賀産は兵庫産と同様に、収穫が終了して貯蔵物からの出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。 7月から平均価格が上がる中、佐賀産の出荷が平年並みと見込まれるものの、兵庫産の出荷が平年を上回る見込みであることや、流通在庫があることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		85.93	78 (91%)	75 (87%)	82 (95%)	102.67	・2.224t (118%)	兵庫(76)			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	291.18	332 (114%)	349 (120%)	346 (119%)	287.00	・1.739t (128%)	茨城(59)、千葉(15)		茨城産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、最近の高温による品質劣化や病害の一部発生に加え、前進出荷もあって切り上がりが早まることから、現在平年並みの出荷は、今後は平年を下回る出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均並みの価格は、平均を上回って推移する見込み。	
		334.20	259 (77%)	246 (74%)	270 (81%)	462.77	・240t (107%)	香川(44)、徳島(19)			
	はくさい	67.05	59 (88%)	74 (110%)	77 (115%)	58.82	・3.355t (112%)	長野(87)		長野産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 加工向け需要もあって6月中旬に上昇した価格は、下旬に入り下落しており、7月から平均価格が下がる中、長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		74.06	84 (113%)	77 (104%)	75 (101%)	62.79	・2.206t (97%)	長野(99)			
	ほうれんそう	376.10	416 (111%)	445 (118%)	505 (134%)	583.95	・692t (109%)	群馬(32)、栃木(27)		群馬産は、6月の低温及び日照不足で生育が遅延していることから、現在平年を下回る出荷となっているものの、最近の気温上昇で生育は回復傾向にあることから、今後は平年並みの出荷の見込み。栃木産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 生育遅延による出荷数量の減少で現在の価格は平均を上回っているが、7月から平均価格が上がる中、栃木産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、平均を下回って推移する見込み。	
		416.73	505 (121%)	532 (128%)	579 (139%)	670.86	・292t (109%)	岐阜(76)			
	レタス (結球)	120.13	106 (88%)	94 (78%)	104 (87%)	120.13	・5.836t (102%)	長野(81)		長野産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 長野産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		125.61	117 (93%)	95 (76%)	107 (85%)	125.61	・2.012t (92%)	長野(98)			
果菜類	きゅうり	199.33	214 (107%)	245 (123%)	302 (152%)	232.28	・4.623t (111%)	福島(40)、岩手(15)		福島産及び岩手産は、6月の低温で生育が遅延していることから、現在平年を下回る出荷となっているものの、最近の気温上昇で生育は回復傾向にあることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 生育遅延による出荷量の減少により6月中旬に一時的に上昇した価格はその後下落して平均に近づいており、7月から平均価格が上がる中、福島産及び岩手産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。	
		195.38	209 (107%)	225 (115%)	240 (123%)	244.44	・1.632t (123%)	福島(29)、愛媛(22)			
	トマト (大玉)	242.08	207 (86%)	216 (89%)	274 (113%)	265.08	・4.484t (91%)	青森(16)、北海道(14)		青森産及び北海道産は、6月の低温で生育が遅延していることから、現在平年を下回る出荷となっているものの、最近の気温上昇で生育は回復傾向にあることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 生育遅延による出荷量の減少により6月下旬に一時的に上昇した価格はその後下落して平均価格に近づいており、7月から平均価格が上がる中、青森産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。	
		239.96	212 (88%)	216 (90%)	258 (108%)	298.46	・1.783t (94%)	北海道(36)、熊本(15)			
	なす	311.92	351 (113%)	376 (121%)	384 (123%)	242.04	・2.683t (110%)	群馬(40)、栃木(26)		群馬産は、6月の低温で生育が遅延していることに加え、一部に病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。栃木産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 栃木産の出荷が平年並みと見込まれるものの、群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、7月から平均価格が下がる中、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		271.01	326 (120%)	332 (123%)	314 (116%)	232.81	・1.195t (107%)	山梨(23)、徳島(17)			
	ピーマン	290.48	308 (106%)	328 (113%)	410 (141%)	290.48	・1.109t (99%)	茨城(52)、岩手(29)		茨城産及び岩手産は、6月の低温で生育が遅延しており、最近の気温の上昇により生育は回復傾向にあるものの、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 茨城産及び岩手産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの、生育は回復傾向にあることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		307.99	226 (73%)	258 (84%)	389 (126%)	307.99	・417t (100%)	大分(27)、青森(14)			
	根菜類	だいこん	86.59	85 (98%)	89 (103%)	86 (99%)	94.60	・2.459t (122%)	北海道(56)、青森(39)		北海道産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、青森産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
			85.05	79 (93%)	100 (118%)	90 (106%)	90.60	・1.419t (138%)	北海道(75)、青森(11)		
		にんじん	133.01	98 (74%)	93 (70%)	99 (74%)	133.01	・3.622t (95%)	青森(45)、北海道(30)、千葉(21)		青森産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。北海道産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、青森産の出荷が平年を上回ると見込まれることや、流通在庫も多いことから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	132.62	72 (54%)	74 (56%)	77 (58%)	132.62	・1.622t (109%)	青森(46)、北海道(30)				

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL : https://www.aic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今般の大雨により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	6月の価格情報					7月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	6月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	7月の主産地	生育及び価格の7月下旬までの見通し	
	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格								「図の見方」	
	上旬	中旬	下旬	平均価格	現時点の価格水準					
いも類	さといも	361.20	461	493	538	361.20	・26t (51%)	宮崎(44)、鹿児島(35)	→	宮崎産は、一部に病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。鹿児島産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		347.90	524 (128%)	582 (136%)	519 (149%)	347.90	・13t (66%)	鹿児島(55)、中国(34)		
	ばれいしょ	145.31	69 (47%)	67 (46%)	61 (42%)	117.36	・5,730t (223%)	茨城(37)、千葉(23)	→	茨城産及び千葉産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 茨城産及び千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることに加え、流通在庫も多いことから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
152.23	94 (62%)	75 (49%)	65 (43%)	117.36	・2,256t (274%)	長崎(43)、北海道(34)				

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している下記URLを参照。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今年般の大雨により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	6月の価格情報					7月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	6月下旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	7月の主産地	生育及び価格の7月下旬までの見通し	
	東京都・大阪市場の旬別平均価格								「図の見方」	
	上旬	中旬	下旬	平均価格	現時点の価格水準					
洋菜類	ブロッコリー	335.48	380 (113%)	449 (134%)	503 (150%)	384.87	・534t (106%)	北海道(60)、長野(22)	→	北海道産は、6月の低温や降雨が続いて生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。長野産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 長野産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることや、市場での引き合いも強いことから、7月から平均価格が上がる中、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		389.06	347 (89%)	437 (112%)	497 (128%)	412.22	・166t (129%)	北海道(43)、長野(35)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している下記URLを参照。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今年般の大雨により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

2 野菜の輸出入動向 ー 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について ー

○輸入について

貿易統計によると、平成30年5月の生鮮野菜の輸入量は、7万4千トン(前年同月比86%)となり、前年からやや減少した。また、加工野菜は、17万5千トン(同100%)であり、野菜全体では、24万9千トン(同96%)となった。このうち、中国産の輸入数量は合計で12万4千トン(同106%)と輸入量の50%を占めた。

5月の輸入量は、昨秋の天候不順による野菜の高騰を受け、輸入が前年を超過していたが、国産野菜の順調な出荷により価格が低下したことから輸入量は減少した。

当月における品目別の動向をみると、主要品目であるたまねぎは、2万3千トン(同82%)と減少したが、1月、2月と大幅に前年を上回っていたことから本年累計ではほぼ前年と同程度の輸入量となっている。また、同様の動きはその他の品目でも見られ、かぼちゃでも、1月から3月までは前年を上回って輸入されていたものの、4月、5月と減少し、ブロッコリーについても、未だに前年を上回った数量であるものの、対前年比で200%を超えていた先月までの状況からみると当月は落ち着いてきている(同127%)。ただし、ブロッコリーについては、6月の中旬頃より主産地の北海道における多雨による日照不足などの影響により入荷量が例年より少なく、卸売市場価格も高水準で推移していることから、今後の輸入動向を注視していく必要がある。

○輸出について

5月の輸出量は、生鮮野菜は743トン(同94%)、加工野菜は1,074トン(同128%)となり野菜全体では1,817トン(同112%)となった。

生鮮野菜全体では前年並みとなり、輸出の主品目である長いもは同105%であり、輸出先も大きな変化がないことから安定的な輸出がなされていると思われる。しかし、輸出単価をみると円安の影響もあり、昨年は1キロ当たり500円台から600円であったものが、本年は300円台(同58%)で推移しており数量は若干増加しているものの、金額では反対に若干の減少となっている。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成30年5月) (単位:トン、%)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	前年比	前年比	前年同月比		
生鮮野菜	65,956	86	85,667	130	73,780	86
加工野菜	151,787	99	174,504	115	174,856	100
野菜合計	217,743	95	260,171	119	248,635	96
うち中国産野菜合計	100,745	91	116,927	116	123,903	106
中国産シェア	46		45		50	

主な生鮮野菜の輸入先(平成30年5月) (単位:トン、%)

品目	輸入合計	1位		2位		3位		
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	22,618	82	中国	19,362	ニュージーランド	2,129	オーストラリア	1,093
かぼちゃ	9,954	60	メキシコ	7,773	ニュージーランド	2,180	-	-
にんじん	9,354	127	中国	7,534	ベトナム	954	オーストラリア	335
キャベツ	5,295	119	中国	5,295	-	-	-	-
ばれいしょ	4,934	118	韓国	4,659	オランダ	229	カナダ	34
ねぎ	3,704	107	中国	3,451	台湾	253	-	-
ごぼう	3,612	106	中国	3,279	台湾	139	アメリカ	128
ジャンボピーマン	3,494	115	メキシコ	3,108	グアテマラ	146	コスタリカ	130

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成30年5月) (単位:トン、%)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	前年比	前年比	前年同月比		
生鮮野菜	2,736	328	789	29	743	94
加工野菜	822	111	839	102	1,074	128
野菜合計	3,558	226	1,627	46	1,817	112

主な生鮮野菜の輸出先(平成30年5月) (単位:トン)

品目	輸出合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	477	台湾	232	アメリカ	192	シンガポール	49
いちご	79	香港	58	シンガポール	14	タイ	4
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	63	台湾	28	香港	20	タイ	8

同(平成29年5月) (単位:トン)

品目	輸入合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	27,460	中国	18,327	ニュージーランド	8,100	オーストラリア	949
かぼちゃ	16,539	ニュージーランド	8,934	メキシコ	7,602	アメリカ	3
にんじん	7,392	中国	7,094	ニュージーランド	110	オーストラリア	108
ばれいしょ	7,198	アメリカ	25,667	ベルギー	2,302	オランダ	1,663
ねぎ	4,440	中国	4,433	ベトナム	7	-	-
ジャンボピーマン	4,197	韓国	3,971	オランダ	189	ニュージーランド	21
ごぼう	3,456	中国	3,203	台湾	252	-	-
キャベツ	3,410	中国	3,269	オーストラリア	53	アメリカ	49

同(平成29年5月) (単位:トン)

品目	輸出合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	456	台湾	251	アメリカ	160	シンガポール	41
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	105	台湾	63	タイ	18	香港	14
いちご	84	香港	72	台湾	6	シンガポール	4

資料:農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料:財務省「貿易統計」)
※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。
※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。